

北区新大宮商店街～大徳寺・今宮神社周辺の活性化に向けて

杉本 考次

1. はじめに

私は京都市北区で建築設計事務所を主宰しています。建築設計をするに当たって、建築は「建物外観や外構・植栽を整え景観を向上させる」といった社会へ還元する役割があると考えています。それは法律や条例をただ守るだけではなく、より良き町並みになるように景観に貢献するという事です。幸い京都市は戦災も少なく、歴史ある文化的価値の高い建築が多数残存しています。この古い建物と新しい建物の調和を考えて、現在の美しい景観を創出することは、私の建築設計活動のテーマでもあります。

2. 対象エリアについて

2-1. エリアを選んだ理由

私が選出した場所は「北区新大宮商店街～大徳寺・今宮神社周辺」です。私はこの地域に生まれ育ち、現在も生活の拠点としています。住んでいて感じるのは、昔に比べて地域に活力が無くなっていることです。特に新大宮商店街については来客数が激減しています。今までの歴史に、新たな魅力を加えることで活力を取り戻して欲しく思っています。そして景観を美しいものにすることによって、新大宮商店街から大徳寺・今宮神社周辺の魅力を更に高めていければと思い、対象エリアに選出いたしました。

2-2. 地域の歴史と現状

新大宮商店街は、大宮通りの北山通りから北大路通りまで約1キロの京都市で一番長い商店街です。歴史的には昭和3年あたりから商店街の原型が出来上がったと言われていています。過去から生鮮三品（肉・魚・野菜）中心の商店街として発展して来ました。有名な錦市場に例えて、新大宮商店街は「北の台所」と呼ばれて来ました。現在の150店舗のうち、生鮮三品は10店舗と激減しています。昭和38年で200軒あった商店街ですが、平成に入って陰りがみえ始め10年前には閉鎖店舗もかなり増えていました。現在は少し持ち直し、新たな店舗も増え始めています。それでも閉鎖店舗は55軒と、4軒に1軒はシャッターなどが閉まったままになっています。



昭和32年



昭和54年



昭和57年

商店街の取り組みとして目を引くのは、毎年7月末に開催されている「夏祭り」です。各店主がリーズナブルな価格で屋台を出店することから、5万人が集まる大盛況となっています。昨年で36回を迎えています。また、昨年11月に100坪を超える「新大宮広場」というイベント会場もオープンしました。市民や店主らが自由な発想でイベントを催すことができるコミュニティ空間です。私の訪れた12月の中頃には登山関係

のファッション市が開かれて賑わっていました。

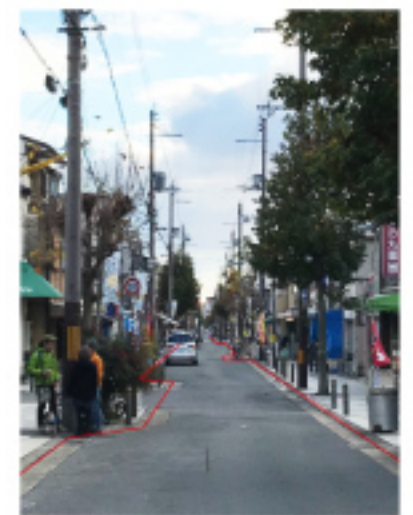
商店街の建物は京町家が多く、看板建築にして京町家を改造しているところが多数確認できます。

大徳寺通り（旧大宮通り）は、上賀茂神社へ通じる主要道として賑わっており「寛永十四年洛中絵図」にも記録があり、大徳寺今宮周辺に当たっては「町家」と記されています。現在も付近に町家が点在しており、町家を改装した店舗も増えつつあります。大徳寺門前に於いては、精進料理や茶道に関する格式高い雰囲気のある建物が多いです。一休宗純や千利休で知られる大徳寺は鎌倉時代に建立され、塔頭は24を有し数多くの国宝や重要文化財を包括しています。

今宮通りは、大徳寺周辺に京町家が点在しており、江戸時代からの町家も文化財として現存しています。今宮神社は1000年以上の歴史を持ち、氏子区域が広く祭礼の規模も大きい神社で知られています。また厄除けの「あぶり餅」は、北側の一和が1000年、南側のかざりやは400年の歴史を持っているそうです。

2-3. 交通と道路

新大宮商店街は南行きの方通行です。これは20年程前にコミュニティ道路整備工事が行われ、シケイン（左写真）を設けると共に、両側通行より一方通行になりました。地域の不動産業者より、この時期より客足が減ってしまったという話も聞いています。街路樹も密ではありませんが植樹されています（コブシ、フウ、ハクモクレン、ハナミズキ、モミジ、モチノキ）。



シケイン形状

公共交通機関は、地下鉄北大路駅から1~1.5キロ離れていて徒歩では15分前後かかります。市バスは北大路通り、北山通り、今宮神社周辺に通っています。特に北大路通りは系統や本数も多いです。車で来た場合の有料パーキングは、新大宮商店街内や周辺に計100台程度出ています。大徳寺と今宮神社には45台程度あります。有料駐車場は新大宮に1箇所あります。

2-4. 問題点


新大宮商店街の問題点として挙げられるのは、前述した閉鎖店舗の多さです。シャッターが降りた店が多い商店街は、活気がなく近寄りがたいものを感じてしまいます。店舗併用住宅が多いために、店舗を閉鎖してシャッターを閉めながら生活をする高齢世帯が増えているのでしょう。これは全国的に見られる傾向で社会問題化しています。高齢化や後継者問題、相続など様々な要因がありますが、閉鎖店舗を放置して環境を悪化させないように行政的な取り組みが欲しいところです。景観的な視点で商店街一帯を見渡して感じるのは、通りが雑然としていて魅力を感じないことです。具体的には、アスファルト舗装や歩道のタイル、電柱・植栽・街灯柱が歩道の車道側に密集して建っています。歩行者の視認性が悪く、道路も狭く感じてしまいます。また、色彩的にも統一感がありません。また道路のシケインの使い方も有効利用出来ていません。

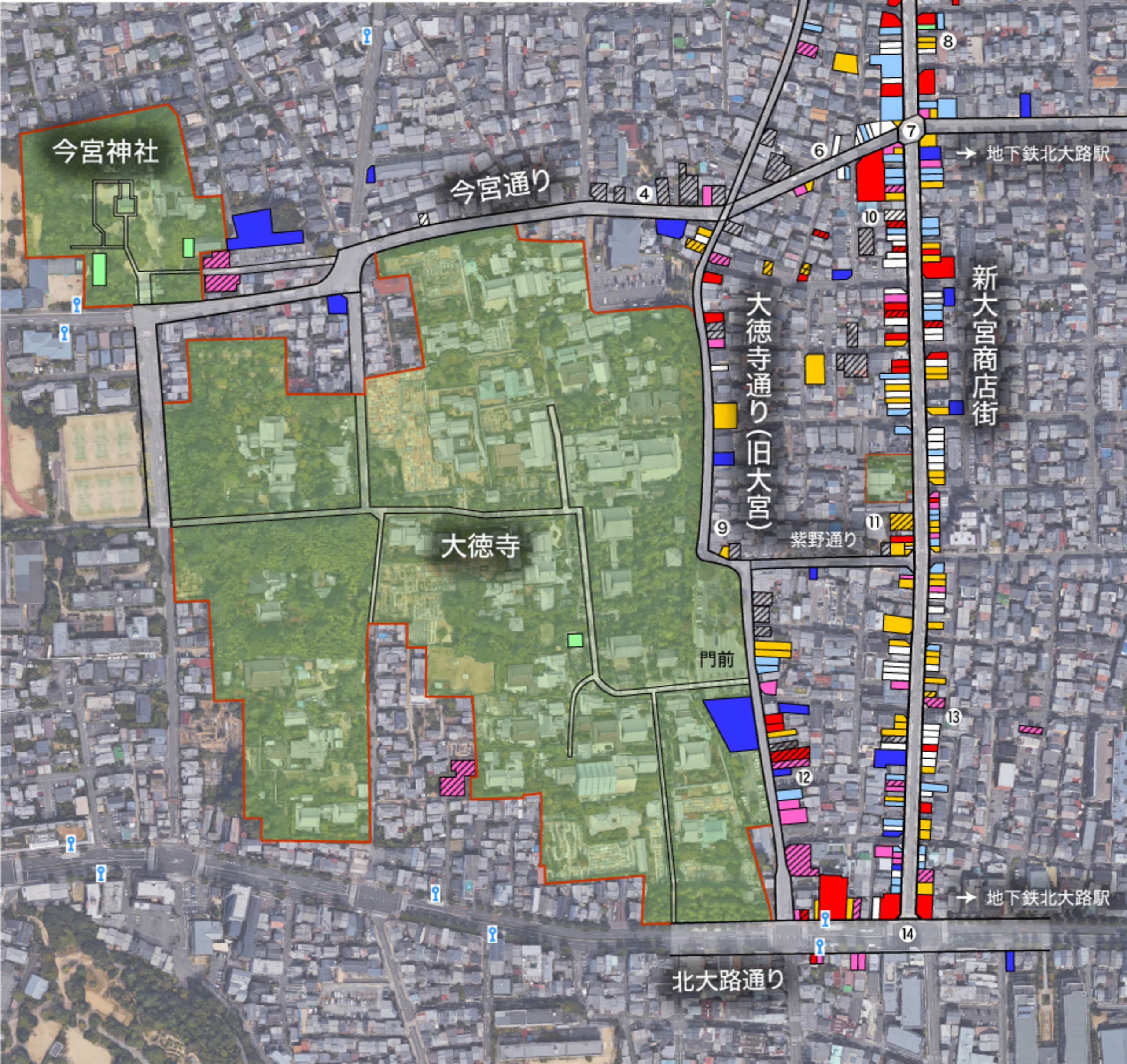
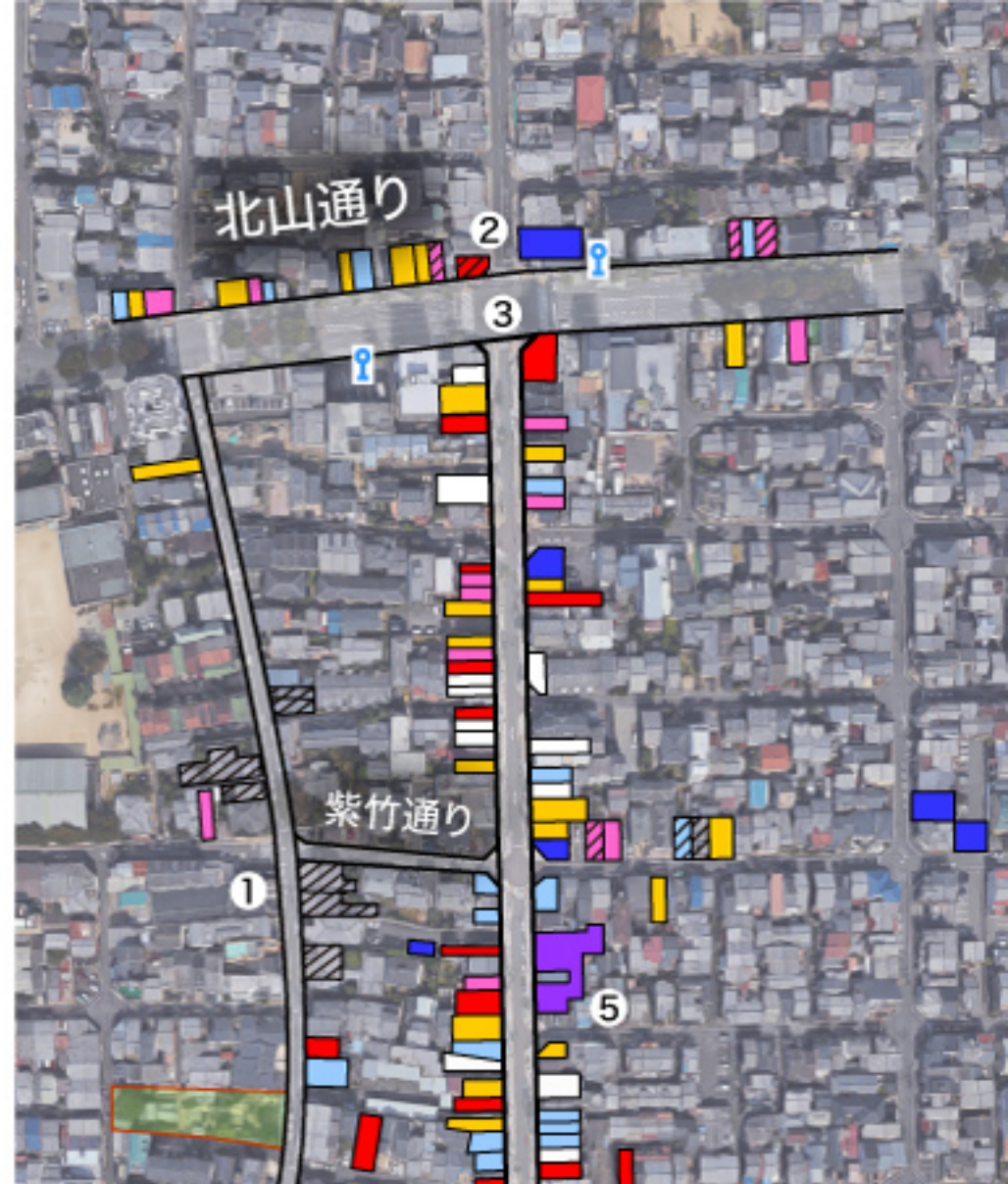
大徳寺通りの紫野通りから今宮通りに関しては、大徳寺の塀に面するため歴史的な雰囲気を感じるものの、幾分か寂しさを感じます。

今宮通りに関しては、新大宮より西にかけ閉鎖店舗が多くなっています。今宮神社に至る大徳寺側に関してはコンクリートブロックの塀が連なっています。昨年の地震によって道路側に傾斜して「危険」というステッカーが貼ってある状態です。

地域全体で感じるのは、新大宮と大徳寺・今宮周辺の結び付きが、至近距離にも関わらずあまり感じることが出来ないのです。

新大宮商店街～大徳寺・今宮神社周辺の現状

【凡例】	今宮通り (神社～新大宮)	大徳寺通り (北山～北大路)	新大宮通り (北山～北大路)
 食料品店	1	6	32
 飲食店	4	9	23
 物販店	3	5	45
 その他店	2	8	53
 閉鎖店	8	2	54
 パーキング	3	3	6
 交流広場			1
 休憩所等	2	1	1
 主な京町家	10	20	12
 社寺仏閣	1	2	1



主要な写真

北
西—東
南



① 大徳寺通紫竹 京町家が軒を連ねる



④ 今宮通には文化財級の建物もある



⑥ 新大宮今宮より西は閉鎖店が多い



⑨ 大徳寺通りの鬱蒼とした木々



⑫ 大徳寺門前町 格式高い雰囲気建物



② 新大宮北山 人気コーヒー店



⑦ 新大宮今宮よりの北方向



⑩ 京町家リニューアル/閉鎖店舗



⑬ 京町家が様々な店舗になっている



③ 新大宮通りを北山通りより南方面



⑤ 新大宮広場 イベントが開催される



⑧ 人気店の出店も増えてきている



⑪ 新大宮通りに建つ立派な表具店



⑭ 新大宮通りを北大路通りより北方面

3. 課題の抽出

3-1. 問題点の整理

昭和末期までの新大宮商店街は大変な賑わいがありました。平成に入り人足が徐々に遠のき始めました。大型スーパーが近隣に出来始め、インターネットでの物販の浸透と共に商店街は大きな打撃を受けていきます。この商店街で、しかも近距離で食料品や生活用品などを、ほぼ全て揃うことができていました。一つの商店街で全ての買い物ができるということは重要です。基本的なお店が欠落していると、その商店街だけでは買い物が完了できません。結果、様々な商品の揃う大型スーパーなどに客が流れ、太刀打ちできなくなってしまいます。特に地域密着型の商店街に言えることでしょう。これは新大宮商店街に限った話ではありません。いまだに繁盛している商店街には、そこでしかない特色を持っています。また老舗や有名なお店があると、その影響で近隣にも便乗効果がありますので活性化しやすくなります。新大宮商店街もかつては何店か特徴のあるお店がありました。鰻屋、大学芋屋、玩具屋、和菓子屋、肉屋、魚屋、パン屋、電気屋などです。昔ほどではありませんが、新しいポリシーを持った店舗が少しずつ増えており、活気が少し戻って来ているのは確かです。

3-2. 課題の抽出

利便性だけで考えるのではなしに、特徴のある、その店にしか無いオリジナリティーのあるお店が理想的です。こういうお店が多数点在すれば、歩きながらお店巡りをする客も増え、商店街だけでなく周辺地域も活性化していきます。そのためには、魅力ある商店街や周辺地域に変えていく努力をしなければ、店舗は増えませんし活力ある町にはなりません。そこで、課題として取り組みたいのは「散歩が楽しい商店街周辺エリア」にすることです。

4. 目標の設定

4-1. 目指すべき到達点

堀繁先生も話されていましたが、ウェルカム感が大切です。お客さんが喜ぶ、観光客が喜ぶウェルカム感が出ていて、京都らしさを感じる景観に変えていきます。そして、散歩することが楽しくなる仕掛けを設けていきます。散策 map（参考資料有り）を設け、お店の紹介をします。またこのエリアに大徳寺や今宮神社などの周辺地域を含めることによって、観光客を商店街へ誘致することにもなりますし、反対もまた然りです。

具体的な施策を、短期と長期に分けて作り上げていきます。短期的には、ベンチや休憩施設の創設、景観保全の遂行、駐車・駐輪場の整備、散策 map の作成・配布、スタンプラリーなどのイベント開催などがあります。長期的には、舗装路（車道・歩道）のやり換え、色彩やデザインの統一、電柱の地中化などが出来れば、商店街でありながら観光地としても魅力のある町を目指せるかと思います。

4-2. 理想像

理想的には新大宮商店街と大徳寺通りが、東西の道（北山・紫竹・今宮・紫野・北大路通り）で賑わいが途切れず繋がるのが理想です。東西の道でも特に今宮通りは新大宮通りの中心に繋がっているので盛況して欲しいものです。

この全域が無電柱化になれば景観的価値も飛躍的に上がり、目標にしている「新大宮商店街と大徳寺・今宮周辺」の価値が飛躍的に上がり、地域は活性化するでしょう。

5. 私の取り組み（参考資料有り）

5-1. 実現へ向けて取り組みの実際

本案は実行に至るまでは、新大宮商店街振興組合（周辺店舗含む）、大徳寺と今宮神社および該当地区に住まわれている住民などとの意見の調整、交渉が必要になります。ここでは新大宮商店街組合を事業主体者と想定し、そこに支援を行う道筋を提案しています。

まず、目標の設定で具体的に挙げた施策を元に、計画案を練り上げて原案を策定します。そして地元との意見交換を行います。お互いの意見を繰り返し交わし、計画案を改訂して練り上げて最終案を取りまとめます。実現に向けて該当者各々で出来るものは実行してもらいます。事業資金が必要な行為については、補助金・助成金・クラウドファンディング・自己資金など確保にあたります。そして実行への手続きを開始していきます。

地元との意見交換については、新大宮商店街振興組合を窓口にし、アドバイスを得ながら組み立てていくものとし、商店街地区界隈の人、行政、専門家などがまちづくりについて話し合う仕組みを作っていきます。今後どのような新大宮商店街を目指すか『新大宮商店街～大徳寺・今宮神社 散歩が楽しいまちづくり計画』を策定、整備計画を提案します。将来も引き継がれていき、商店街や大徳寺周辺地域が今まで以上に活性化し、『新大宮商店街～大徳寺・今宮神社 散歩が楽しいまちづくり憲章』を策定していきます。ここには防災や維持保全についても検討して策定していきます。

まちづくりについて話し合う仕組みとしては、定期的な意見交換会（まち歩きや勉強会、ワークショップ、アンケートなど）を開催します。また、地域外の団体との交流や協力なども目指していきます。

効果としては『新大宮～大徳寺 散歩が楽しいまちづくり憲章』が出来ることによって、該当地区の人達が一致団結してまちづくりを意識してスタートすることができます。また意見交換会や会議を定期的に行うことによって、まちづくりの地盤を固めていくことが出来ます。まちづくりが功を奏すると、商店街周辺が活気付いて客が増え、商店街各店の売上も上がります。また、不動産流通も活発になり、新しい店舗も増えて行き相乗効果で益々潤いのある地域になっていくと思われれます。

スケジュール的には期間を区切りやっていくのが理想です。早急にやるものではありませんし、かといって期限を決めずにやっているとまとまりません。具体的には『新大宮商店街～大徳寺・今宮神社周辺 散歩が楽しいまちづくり憲章』の策定までに2年、事業資金の確保と準備期間に1年、短期的な施策に2年の計5年は必要ではないかと思われれます。また長期的な施策は短期的な施策と共にスタートして、行政側（京都市役所都市計画局、京都府土木事務所など）と交渉しておく必要があります。

実現の可能性については、まちづくり原案を示して、新大宮商店街振興組合に理解を示していただくことができれば可能性は広がります。周辺地域との兼ね合いもありますので、界隈周辺の人たち、大徳寺・今宮周辺地域との連携も必要です。この辺りがまとまっていければ、『新大宮商店街～大徳寺・今宮神社周辺 散歩が楽しいまちづくり憲章』も力のあるものとなり、実現に向けてスタート出来ます。自分たちで可能な事柄は進め、費用が必要な施策は資金を準備する必要があります。この辺りはまちづくりのコアメンバー（新大宮商店街組合の方たち、大徳寺・今宮神社、景観エリアマネージャー、行政など）と打ち合わせを重ねていき実現させていきます。

5-2. 実現可能性へ向けての提案

5-2-1. 短期目標の実現

ベンチ設置について、新大宮商店街内においてはシケインの余白部分に設けると有効的です。シケインは全てで32箇所あるので全てをベンチにするのではなく、花壇や彫刻を設けるなど話し合いで決めていきます。それぞれ相応しい形を考えてウェルカム感のあるベンチなどを設置していきます。休憩所やトイレについては新大宮商店街に1箇所ありますが、長さ的にもあと1箇所程度は必要かと思います。

景観保全の遂行としては、現在の景観・風致条例に適合するように声かけをしていくということです。昔からある建物や、景観条例を知らずして施工された建物など、条例が守られていない色彩なども所々見られます。大徳寺のコンクリートブロック塀に関しても同じことが言えます。修景していくことで、少しずつ落ち着いた雰囲気を取り戻していきます。また、新大宮商店街は京町家の看板建築が多いので、改装する場合には是非京町家の魅力を取り戻すような建築にして欲しく、建築や改装をする場合は「まちづくり憲章」に照らし合わせコアメンバーに声を掛けてもらう仕組みを作ります。

散歩 map の作成・配布については、コアメンバーで打ち合わせを重ね「新大宮商店街～大徳寺・今宮神社周辺の散歩 map」を作成し、駐車・駐輪場の情報も書き込みます。それぞれの店に置いて配布するものとします。散歩 map の延長線上に、スタンプラリーなどの商店街客・観光客用のイベントなども開催して普及活動を行っていきます。

5-2-2. 長期目標の実現

現在の車道の舗装は普通のアスファルトです。いつも思うのですが、どこもかしこもこの青いアスファルトで良いのでしょうか。風致条例は建物の色は規制をしますが、一番目立つ道路の舗装の色は何故規制をしないのでしょうか。

京都の雰囲気に合うように茶色系のカラー舗装を提案します。まずコアメンバー内で話し合いその後、役所と折衝を続けてカラー舗装化します。カラー舗装で雰囲気は変わり、カラー舗装で結ばれた地域は繋がりが深くなっていきます。(歩道もカラー舗装が良いと思います。)

色彩やデザインの統一ですが、基本的には景観条例の色彩で問題はないと思います。詳しく見ていくと電柱や電灯柱、進入防止ポールなどの色彩の統一化ができていません。また、デザインに関しても電灯柱を和風にするなど、各部見直していきます。

そして、最終的には無電柱化を目指します。写真でも電柱と電線が乱雑で景観上一番問題なのは一目瞭然です。新大宮商店街の電柱を地中化し、今宮通りそして大徳寺通りを地中化できれば長期目標は完了です。

6. まとめ

6-1. まとめ

本提案・提言は、新大宮商店街および周辺地域にとっての愛着の生まれるまちづくり(新しい視点場の創出、町並みの整備、商店街を中心とした決め事など)を創出したものです。新大宮商店街界隈の景観を向上させて(大徳寺や今宮神社と結びつけ)、京都で誇れる商店街と観光地を目指したものです。

該当地域の景観やコミュニティの特徴は、それぞれの魅力がある地域なので利点をつなぎ合わせて一体となり更に進化できることが出来ると感じました。地域の主体性や共同性を育む仕掛けは、地域の方々の意識が何よりも大切なのではと思います。

景観エリアマネージャーとしての役割は、各主体の調整を図る事が主な役割であることを認識しました。許認可や予算に関わる行政機関、協議が必要な民間団体(新大宮商店街振興組合など)、活用できるシステムやツールなど、様々な用件を示した上で、アイデアの交通整理を計ります。そして、コアメンバーを中心に情報を共有して、実現に向けて進めていきます。

6-2. 今後の抱負

この提案を行う事によって感じたことは、守っていききたい町があれば、どのような町にしていくのかアイデアを出す事が、まず必要であると感じました。そして、事業主体主を見つけ意見提議をしてか議論と交渉を重ねて、自分たちで作り上げていく事が重要であると感じました。

具体的なビジュアルをまとめていくことによって、まちづくりに興味を持っていただき、参画していただく要員が増えるのではないかと感じました。

このレポートでは新大宮商店街界隈の景観保全や経済創出にスポットを当てることによって、近隣住民としての姿勢、考え方を理解することにおおい役立ちました。

今後も機会があれば、景観エリアマネージャーで学んだことを実践していければと考える次第です。

【参考文献・資料】

新大宮商店街 京都紫竹紫野

グーグルマップ

京都市商店街振興組合 近畿経済産業局